

平成26年度 校内研究

テーマ「一人ひとりの生活の質を高めるために」

A部門 個別対応から集団の一人として

～進路を見据えた集団活動等でのスモールステップの取り組み～

集団の中の一人として行動する力を、特別活動等の集団(小中合同もしくは中学部全員)で行える話し合い活動を通して、個を大切にしつつ集団としての変容を図るためスモールステップで目標と取組を設定し、検証していく。

B部門 子どもの主体的動きを引き出す授業作り

身体の動きや気持ちの伝達に困難さを抱えている児童生徒に対して、子どもたち自身の中から「自分からやりたい、関わりたい、楽しみたい」と思える活動内容や、満足のいく学習内容が得られるよう、授業(題材、教材・教具、環境等)を工夫し展開していく。

- ・音楽 ～できた感を大切にした楽器の工夫～
- ・図工・美術 ～いろいろ触れて好きになる～
- ・運動 ～楽しさ心地よさを大切にした授業作り～

C部門 『小児の高次脳機能障害 支援ガイドブック』の活用についての実践研究

昨年度末に完成させた『小児の高次脳機能障害 支援ガイドブック・チェックリスト付』を実践の中で活用し、その事例を簡単にまとめ蓄積できるよう「ガイドブック活用表」を作成した。この活用表を使い、ガイドブックを参考にして行った指導・支援の具体的な内容や教材の工夫と、それに対する児童生徒の反応や変化をアドバイザー(臨床心理士)から助言を頂きながら、簡潔にまとめていく。

D部門 気持ちが伝わる便利さと喜びを育てる

～言語表出・言語が伝わる課題表の作成～

コミュニケーションに関わる課題を抱えている児童生徒が、今以上に言葉や気持ちを伝えることで「便利さ」や「充実感」を感じられるようにしていくために、個々の言語習得に向けた取組の様子を段階的に整理していく。

E部門 働く力を育てる指導 ~卒業後の豊かな生活をめざして~

働く力とは、働くための土台となる力・働くために必要な力・働き続けるために必要な力ととらえ、卒業後の豊かな生活、すなわち、生徒が自立して、生き生きと、社会参加できるようになることを目指す。事例の生徒の実践をまとめることで、より望ましい指導について考察していく。